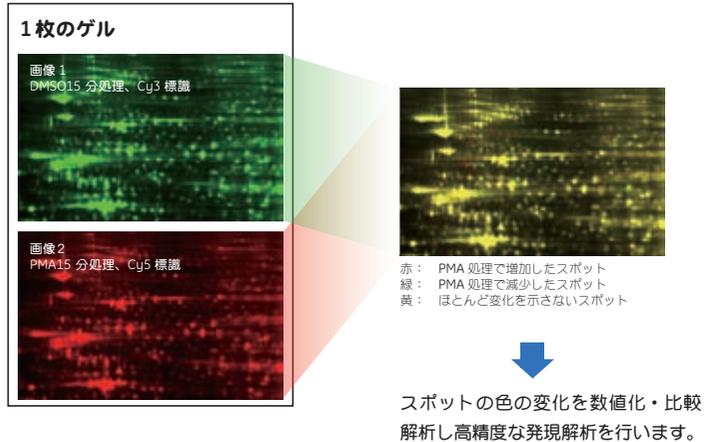


# 利点 1

## サンプル間でのスポットの量変動が一目瞭然

従来の二次元電気泳動で2種類のサンプルの発現解析を行う場合、2枚のゲルで個別に泳動後、それぞれのゲル画像を比較解析します。泳動の差異・ゲルの歪みなどゲル間で異なるさまざまな実験誤差の影響を受けるため、再現性の高いスポットの同定・量変動の比較が困難です。一方、Etan DIGE では2種類のサンプルをあらかじめ異なる蛍光色素で標識し、同一ゲル上で泳動するので泳動の差異は生じません。また、ガラス板に挟んだままゲルをスキャンすることが可能なので染色などによるゲルの歪みの影響を受けません。同じタンパク質のスポットは同じ位置に現れ、Multiplex 検出によりスポットの量変動は一目瞭然です。



# 利点 2

## Co-Detection 機能により最大3サンプルのスポットを同時検出

一般の二次元電気泳動解析ソフトウェアではスポットマッチングが必要ですが Etan DIGE システムのソフトウェアなら Co-Detection 機能により最大3サンプルのゲルイメージからスポットを同時検出するため同一ゲルのイメージ間のマッチングが必要ありません。このため比較対象が見つからないスポットが生じたり、異なるスポットを同一スポットとして誤認識するリスクが低減します。



ConA 精製サンプル



LCA 精製サンプル

スポット認識 (枠線)  
がサンプル間と同じ

# 利点 3

## 内部標準の使用により多サンプル解析でも高い定量性・再現性を実現

内部標準を使用することで多数枚ゲルの解析においても実験誤差を補正し、ゲル間のマッチングを正確に行うことが可能となり高い定量性を実現します。

内部標準とは、比較するサンプルを等量ずつ混合したものです。右の例では4サンプルの比較を行っているので、これらの4サンプルを等量ずつ混合したものが内部標準となります。

